

びわ湖岸観光資源と湖上交通を活用した MICE等ビジネス観光拠点再生計画事業 事業計画書

2021.10月

大津商工会議所



01.事業概要と目標

事業概要

大津市内の琵琶湖岸2キロの間には合計1万人を収容できる官民の会議施設11カ所が集積しており、これらを連携して運用する「びわ湖コンベンションストリート活性化協議会」を本年5月に設立した。これは、滋賀県、大津市の行政と県内の全商工会議所や民間事業者が参加した組織で、2025年大阪・関西万博を見据え、万博関連会議の誘致やビジネス誘客を創出し、2025年に現状から10%増の観光客数を目指すこととしている。

コロナ禍による大幅な観光客の減少を回復するため、MICE誘致に取り組むこととしており、富裕層およびミドルクラス層のビジネス客を対象としたモニターツアーを実施することにより、JR京都駅から大津駅まで9分、大阪駅からも45分という交通の利便性を実感する仕掛けを講じる。具体的には、琵琶湖を観光資源として価値化する「湖上交通」の送客実験に取り組むとともに、大型客船を活用した「湖上会議」や「ユニークベニュー」と呼ばれる文化財を活用した会場の設定や、会議後の観光などに彦根城や比叡山延暦寺など琵琶湖岸に点在する文化・観光拠点を生かす。併せて、ビジネス観光推進型MaaSの実証実験にも取り組むことにより、オンデマンド観光で琵琶湖周辺観光のポテンシャルを引き上げ、観光拠点の再生を図る。

課題

MICE等誘致への情報発信不足

MICE等国际会議を開催する施設が集積しているにもかかわらず、大津をはじめ県全体としての情報発信力が弱く、京都・大阪からの利便性や文化財を会議に活用できる観光資源に恵まれている割には知名度が低くブランド力が弱い。

湖上交通など周遊観光に向けた新たな魅力創造不足

滋賀県の観光地、各所は琵琶湖の周辺、東西南北各エリアに分散しており観光地を巡る周遊に繋がっていない。また湖上交通など新たな魅力創造と取り組みが十分でなかった。

コロナ禍による大幅な観光客の減少

2025大阪・関西万博の好機を活かし、万博関連の会議を誘致し、観光振興を推進することで

目標

2025年大阪・関西万博までに
国際会議・全国会議を各5件以上誘致

観光客宿泊者数 10%増

湖上交通利用観光客数 10%増

お土産等観光消費額 10%増

実証実験による観光活性化構想の具体化

①モニターツアー事業

アフターコロナ、万博を見据え、
富裕層およびミドル層向けツアープランを実施することにより、
滋賀県・大津でのMICE開催の適地性および
周遊・滞在型観光の開発と定着を図る。

②湖上交通実証実験事業

既存湖上交通事業者の新たな事業展開の可能性調査事業の実施
漁船活用した湖上タクシー、クルーザー等の可能性調査事業の実施
ビジネス客、アフターコンベンション活用でのMaaSの実証実験

③ビジネス観光推進型MaaSの実証実験

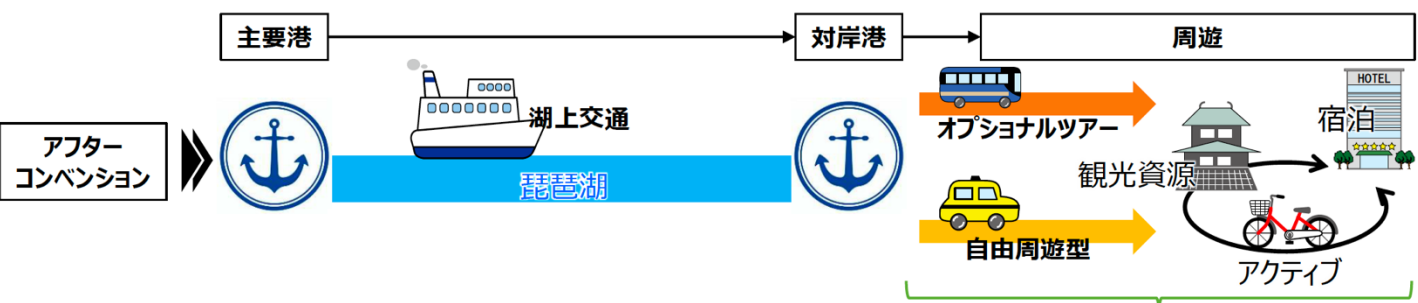
モニターツアーと連携して、アフターコンベンション等を想定
したオプションツアーや湖上交通等を現地で
容易にコーディネートできるアプリを開発し、
「コンベンションMaaS」実証実験を行う。
湖上交通事業者とタクシー、旅館等との連携可能性実証事業

④MICE実施に向けた情報発信事業

モニターツアーの募集と並行して、
大津のモノやコト、古典的食事・食材・伝統的文化（祭り等）を
特にコンベンション参加者の女性ビジネスパーソンを
ターゲットに大阪・京都に向けて発信する。

03.事業詳細 ①モニターツアー事業

- 湖上交通を活用したモニターツアーを造成
 - ツアーはアフターコンベンションとして急遽参加する人を想定
 - 将来的には対岸先の周遊に対する自由周遊を希望する方についても、対岸港先の端末交通の交通手段の配送サービス、観光資源や宿泊施設の案内、アクティブの予約サービスの提供も視野に
 - 上記の取り組みを通じて、MaaSにより予約等出来るアプリを開発し、湖岸エリアAPIの構築を目指す
- 当該事業では当面関係事業者間の取り組みや連携に関する課題を抽出し、湖岸エリアAPIの方向に向けたプラットフォームの構築およびその運営事業の立ち上げ支援。



MaaS 要素 配送サービス、観光資源 宿泊案内 MaaS

③琵琶湖の魅力開拓
湖上から楽しむ琵琶湖の魅力開拓および琵琶湖周辺の各エリアの機能強化

②和リゾート・滞在型観光
「おごと温泉」という本格的温泉地による和リゾートの提供、滞在型観光の開発

①立地条件のPR
関空・中部国際空港から100km圏内、大阪駅から45分、京都駅から9分の地の利をアピール

④寺社仏閣・城遺跡を活用した観光
国宝・重要文化財の総数で全国4位の歴史的街並みや豊かな自然を活用した観光コンテンツの開発

04.事業詳細 ②湖上交通実証実験事業

既存湖上交通事業者の新たな事業展開の可能性調査事業の実施
漁船等を活用した湖上タクシーの可能性調査事業の実施
観光型MaaSの実証実験

①既存湖上交通事業者の新たな事業展開の可能性調査

クルーズ船など既存の観光船のみならず、漁船を活用した湖上タクシーなどの開発

②観光型MaaSの実証実験

アプリによる湖上タクシーの予約など観光型MaaSの実証実験

The image is a composite illustrating the 'Lake Water Taxi' project. It features three main components:

- Top Left:** A photograph of a white motorboat with a canopy on Lake Biwa, carrying several passengers.
- Center:** A map of Lake Biwa with various landmarks marked. Landmarks include: 竹生島 (Takeshima), 黒壁スクエア (Kuroki Square), 長浜城歴史 (Nagahama Castle History), 白鬚神社 (Shirahige Shrine), びわこテラス (Biwako Terrace), シャーレ水ヶ浜 (Share Mizugahama), ラ コリーナ近江八幡 (La Collina Nagoya), 八幡堀 (Yatsuhashi Gorge), おごと温泉 (Ogoto Onsen), 日吉大社 (Hinogi Grand Shrine), 延暦寺 (Enryakuji Temple), 三井寺 (Mitsui Temple), 大津駅 (Ōtsu Station), 石山寺 (Ishiyama Temple), 佐川美術館 (Sakai Museum of Art), 大笹原神社 (Oosagami Shrine), 苗村神社 (Naemura Shrine), 御上神社 (Mikami Shrine), 善水寺 (Zensui Temple), 常楽寺・長寿寺 (Joze Temple / Chosouji Temple), 西明寺 (Seimeiji Temple), 金剛輪寺 (Kongorinji Temple), 彦根城 (彦根城), 滋賀大学経済学部 附属史料館 (Shiga University of Economics Department of Economic History Museum), 玄宮園 (Genkuyuen), and 向源寺 (Mukaiyama Temple).
- Top Right:** A smartphone displaying the 'びわ湖 湖上タクシー' app. The app interface shows a search for 'どこから乗りますか?' (Where do you want to get on?) with '大津港' (Ōtsu Port) selected, and 'どこで降りますか?' (Where do you want to get off?) with 'おごと温泉' (Ogoto Onsen) selected. A red '予約する' (Book) button is visible. Below the text is a map of the lake area.
- Bottom Right:** A photograph of a boat docked at a pier.

05.事業詳細 ③ ビジネス観光推進型MaaSの実証実験

モニターツアーと連携してアフターコンベンション等を想定したオプションツアーや湖上交通等を現地で容易にコーディネートできるアプリを開発し実証実験を行う。
湖上交通事業者とタクシー、旅館等との連携可能性実証事業
将来的なコンベンションAPIとしての都市OS基盤形成の可能性も探る

MaaS提供アプリの機能例

①湖上交通の予約

漁船を活用した湖上タクシーの予約

②オプションツアーの予約

アフターコンベンション等を想定したオプションツアーの予約

③おすすめスポットの案内

対岸目的地のおすすめスポットを案内

④対岸交通手段の予約

自由周遊を希望する方に向けた対岸港先の交通手段の予約

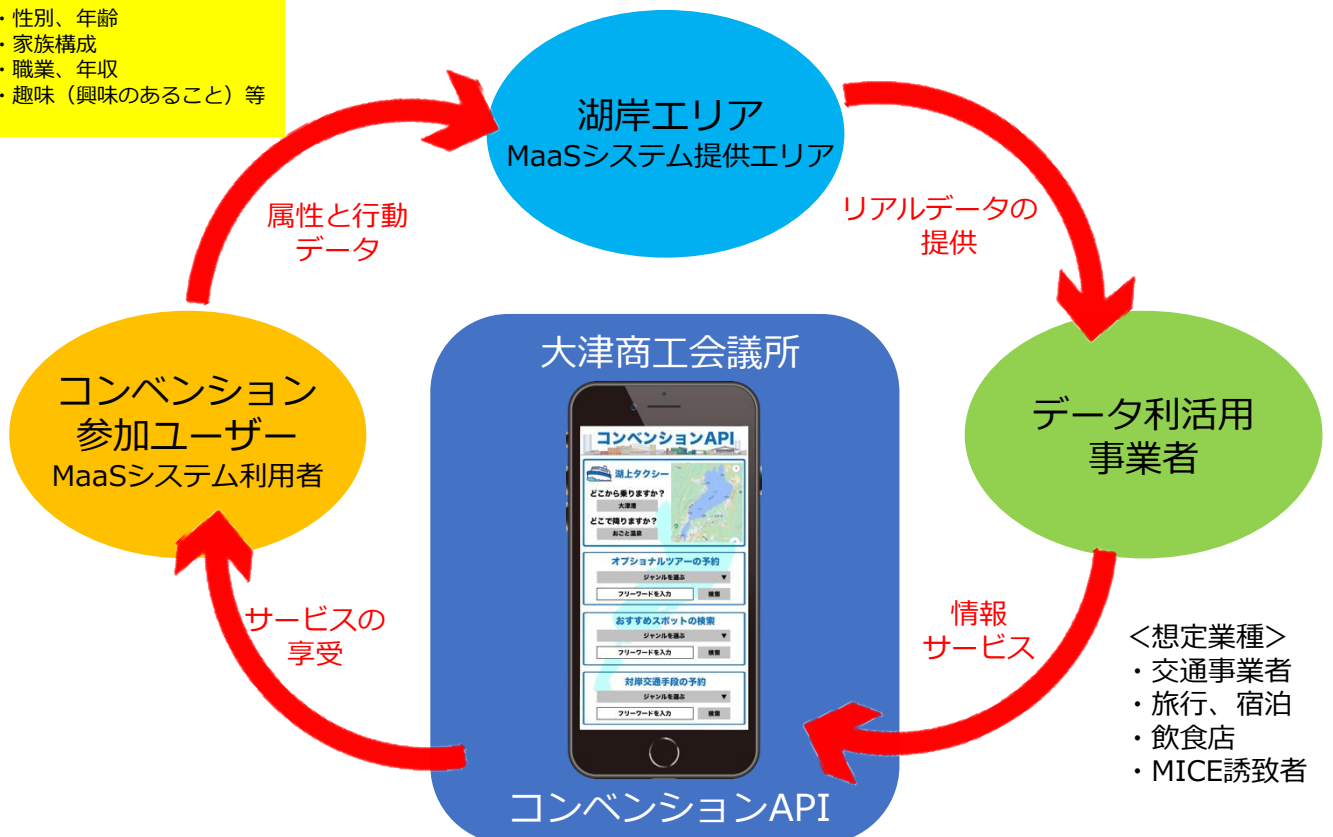


将来のコンベンションAPIイメージ

コンベンションAPIとは・・・ MICEを中心としたコンベンションに集まる人流・行動・バイタルなどのデータを集積するプラットフォーム。多様なデータ・機能を「利用・活用する事業者」へ提供する機会を（一社）大津湖岸エリア活性化協会が整備・運営し、データ基盤のみをコンベンションAPIとしてデータ活用事業者へ提供

<提供基礎データ>

- ※個人を特定しないデータ
- ・性別、年齢
- ・家族構成
- ・職業、年収
- ・趣味（興味のあること）等



06.事業詳細 ④MICE実施に向けた情報発信事業

モニターツアーの募集と並行して、大津のモノやコト、古典的食事・食材・伝統的文化（祭り等）を特にコンベンション参加する女性ビジネスパーソンをターゲットに大阪・京都に向けて発信する。

①京阪グループの基幹情報誌の活用

大阪、京都で大津の知名度向上を図る。

→企業本・支社、コンベンション開催主へのPR

→わずかな移動時間で、密を避けた非日常を楽しめる旅をアピール

《京阪電車京都・三条京阪～浜大津》

②Webメディア（annaアンナ）の活用

《読者の70%が関西在住の24～44歳の女性》

知っているようで知らない大津の魅力をPR

③コンベンションに向けた大津情報誌の制作・発刊

コンベンション参加者に大津の歴史・グルメ・文化を知ってもらえるような情報誌を制作・発刊する



京阪グループ沿線おでかけ情報誌
K PRESS



関西をもっと楽しむライフスタイルマガジン
anna（アンナ）

大津情報誌の制作・発刊

- ・滋賀・大津のモノやコト、古典的食事・食材・伝統的文化の取材
 - ・湖上会議等ユニークベニュー、アフターコンベンションに資する取材
 - ・大津の100年企業、琵琶湖の湖魚や近江牛など滋賀を象徴する「食」の取材
 - ・湖上交通（琵琶湖の観光船、漁船タクシー、豪華湖上交通）の取材
 - ・琵琶湖の島めぐりの取材
- など

07.効果検証

①モニターツアー参加者の情報

参加者属性（性別、年齢、同行構成、趣味等）

②ツアー自体の満足度、ニーズ

アンケートを実施し満足度やニーズについて検証する

③モニターツアー後の検証

周遊ルート、滞在地、消費金額等を分析し、課題を整理する

④MaaS要素に関する評価

アプリの使い勝手、満足度やニーズについて検証し社会実装について検討する

⑤アフターコンベンションとしての滋賀県下の活用の可能性

将来の需要予測、湖上交通事業の採算性検討など

⑥コンベンションAPIとしてのデータ利活用の可能性

得られるデータ基盤をデータ利活用に提供することによるAPI基盤形成の可能性

⑦構想としての取りまとめ

以上の効果検証により、観光活性化構想としてとりまとめる